

風土記の丘の花だより⁹⁴

今、そしてこれから見られる植物(2021年7月10日)

伊豆の方で大きな災害が起きました。お見舞いを申し上げますとともに、私たちも自然災害への万全の注意と備えに対して再確認しなければなりませんね。

長かった梅雨ももうすぐ明けるのでしょうか、もうクマゼミが鳴き出しました。



田んぼの周りで和歌山にちなんだ名前を持つキシユウスズメノヒエが群生しています。漢字で書けば「紀州雀の稗」ですが、何も和歌山だけに生えるとか、和歌山特産とかいうような植物ではなく、どこにでも生える厄介な水田雑草です。初めて和歌山で採集されて命名されたのでキシユウと付いただけの、実は外来植物です。



秋でもないのにアキノタムラソウが咲き始めています。薄紫色の花が段々に咲いてきれいです。今年初めて開花を確認したのは前山A46号墳周辺でしたが、これからは船屋の南斜面でも花数が増えてくることでしょう。「田村草」の意味は知りませんが、学名は *Salvia japonica* (サルビア・ヤポニカ) で、日本のサルビアという意味です。なるほど、そういえばサルビアに似ていないこともないですね。



万葉植物園でオミナエシが咲きました。前にキキョウを紹介しましたが、同じく秋の七草の一つです。近くにはカワラナデシコもきれいなピンク色の花を咲かせています。まだ夏も過ぎていないのに、秋の草花とは、気が早いですね。そのうちクズやフジバカマも咲いてくることでしょう。



駐車場の近くにハマオモトが咲いています。「浜木綿・はまゆう」という方が普通ですね。本来は暖かい地方の海岸に生えます。種子はスポンジのようなものにくるまれ、波に漂って遠くまで運ばれます。大型で場所を取りますが、優雅な花なので、よく庭や花壇などに植えられます。和歌山県内では、道端や空き地にも生えていることがありますね。松下